



nomorefukushima nomorefukushima nomorefukushima

## 原発といのちを考える会

# WAN ニュース 18

事務局 和光市南 1-24-62 若藤えい子 ☎ 048-466-1993

HP: <https://mamorukai-wako.jimdo.com/>FB: <https://www.facebook.com/nomorefukushima.wan> 2021. 6. 3

### 《第 10 回定期総会報告》

収束しないコロナ禍のため、今年度も定期総会は書面による議決を行いました。会員 33 名中 30 名の賛成が得られましたので、2021 年度の総会議案はすべて可決されました。

4/13、政府は福島第一原発で増え続ける汚染水（3 月現在、約 125 万トン）を、浄化処理した後、海洋放出する方針を正式決定しました。

4/29、福井県杉本直治知事は、40 年を超える老朽原発、美浜 3 号機、高浜 1・2 号機の再稼働に同意しました。このように、原発をめぐる情勢は、あまり芳しくありませんが、これからも様々な情報を収集し、しっかりと見極めて活動していきましょう。

### 和光市の学校給食

#### 放射性物質検査は終わっていた！！

2013 年（平成 25 年）より和光市で実施されていた、学校給食の放射性物質検査（給食 1 週間分丸ごと検査）が中止されています。

これまでの経過をまとめました。

- 2013 年 WAN より「給食の食前の放射性物質検査についての要望書」提出
- 2014 年 WAN ・和光市共同での 3 ヶ月試行測定開始（食材単品検査）
- 2015 年 WAN 単体での給食食材測定継続
- 2016 年 教育委員会より、今後も「単品・事前検査」はしない旨回答
- 2017 年 和光市が学校給食の放射性物質測定実施を大幅削減（週 1 回→学期に 1 回に変更）
- 2018 年 白子小・大和中・第四小・第三中の給食ミキシング検査実施

2019 年 本町小・第二中の検査を最後に給食の放射性物質検査を終了

2020 年 市が行っていた放射性物質簡易測定事業（市民が持ち込んだ食材測定）終了

保護者にも通知のないまま学校給食の放射性物質検査が終了しました。

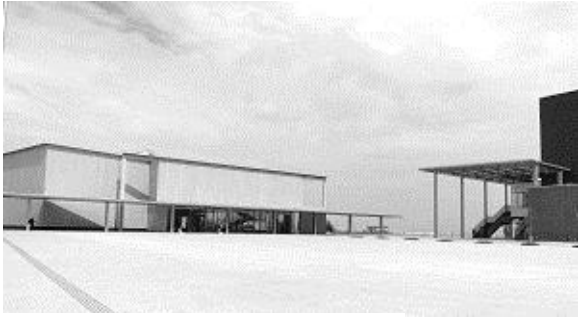
この間にも汚染水放出の決定があり、自民党からは 100Bq/kg の食品安全基準値見直し提言もありました。

昨年も関東のタケノコからは 20Bq/kg 近くのセシウム値（厚労省発表測定結果より）が検出されていたことから、今後も食品の放射能汚染については注視する必要があると思います。





# 東日本大震災・原子力災害伝承館を訪ねて



東日本大震災・原子力災害伝承館

## 【総勢 26 名が参加】

人類史上最悪の 3・11 福島原発事故から 10 年が経ち、毎年、復興税（復旧処理費は電気料金にも上乗せされている）を取られている身の私としても、現状はどうなっているのか知りたくて、出版労連・原発問題委員会の委員をされている富山さんの呼びかけに応じ 4 月 4 日・日曜日、総勢 26 名（出版 18 名＋その友人 8 名）で、昨年 9 月に建てられた双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館へ行ってきました。



フレコンバッグの山に「住宅用地造成中」

## 【無人駅の双葉駅、周辺には店一軒なし】

復旧した小綺麗な双葉駅は特急列車の停車駅でしたが、普通列車は 1 時間に 1 本弱、特急列車は 1 日 3 本と事故前の複線から単線になり、駅員さんのいない無人駅でした。そしてその改札にはデジタル線量計のパネルが設置



双葉駅から人の気配が見渡せない

され、0.08 マイクロシーベルトが表示されました。

駅のホームに降り立つと、線路の片側には黒いフレコンバッグが何段にも積み上げられ、フレコンバッグの山（驚いたことにはそこは住宅用地造成中だとか）。駅周辺には店一軒なく、寂寥としていてとても復興とは言えない原発事故の根深さが垣間見えました。駅前から 6～7 分ほど中型バスに乗ると、伝承館は津波の洗礼を受けたと思われる広い原野にぽつんと建っております。



センターのメニュー・浪江焼きそば。つけ麺風につけ汁・生卵も

## 【事故の原因が明らかにされない展示】

我々一行は伝承館の隣にある双葉町産業交流センターの食堂で慎ましい昼食後（メニューはラーメンと浪江焼きそばのみ）、約 1 時間伝承館の展示見学をしました。そこには原発建設から 3.11 東日本大震災と続いて起こった福島第一原発事故までの経過と結果について、パネルや映像、それに被災した展示物や模型で事故の激烈さを示していましたが、展示の終りの方で 30 年～40



津波で変形した消防車

年で廃炉完了が見込まれていると宣伝し「未来に向けた復興への挑戦」という、方向性をずらした展示になっていることに気づきました。私はこのような未曾有の事故を引き起こした原因を明らかにし、二度と起こさないために教訓化するという事がまったく欠落している展示だと思いました。だから展示見学の最後でなにか心の中にすっきりしないものを残し、ある意味でガッカリし虚しさが残ったのは私だけではないと思います。

### 【報告『現状では復興とは言えない』】

その後、研修室で約40分間、「ヒューマン（語り部）講話」を現地のNPO法人「富岡町3.11を語る会」の青木淑子さんから報告を聞きました。青木さんは「富岡町は双葉町の隣街で



ボランティア・佐藤英明さん（右）

福島第二原発があり廃炉は決まっているが、全く進んでいない（第一原発も同じですが）、とても復興とは言えない。双葉郡は6つの町と2つの村からなり10年たっても帰還困難地域。そして事故前に生活していた富岡町の住民は1万6000人いたが、現在はその1割。しかもその半分はボランティアで残った人や他地区から来た人だ」ということでした。そして「デブリ・汚染水の問題は解決し



展示の一部「除染作業中」

ていない。（牧歌的な）コミュニティがなくなり、アイデンティティも、復興するにも人の気持ちが大事、これらがなくなった」と青木さんは報告してくれました。

#### 【語り手が語らない「思い」を考える】

私には、こうして人生を大きく壊し変えてしまった政府・東電の幹部に対して、青木さんはなぜベクトルを向けないのか、それはなぜなのかを少し考えてみました。事故以前は地域丸ごと原発に依存した生活を為政者や電力資本に預けてきたことと、今でも政府や電力会社の幹部は福島の実情がなくて、高浜、美浜、

福島第二原発があり廃炉は決まっているが、全く進んでいない

（第一原発も同じですが）、とても復興とは言えない。

双葉郡は6つの町と2つの村からなり10年たっても帰還困難地域。そして事故前に生活していた富岡町の住民は1万6000人いたが、現在はその1割。しかもその半分はボランティアで残った人や他地区から来た人だ」ということでした。そして「デブリ・汚染水の問題は解決し

ていない。（牧歌的な）コミュニティがなくなり、アイデンティティも、復興するにも人の気持ちが



「原子力 明るい未来のエネルギー」の看板

女川の原発を再稼働させようとして策動していることと関係しているからなのかなあと感じ、ここでも何か吹っ切れない気持ちが残りました。

#### 【ボランティア・佐藤さんの体験談】

この後、ボランティア・佐藤英明さんから、原発被害の苦しみを謳った替え歌と、この10年間のご経験に関するお話を1時間ほど聞きました。佐藤さんは、以前養豚業に従事されていたところ被災して事業が行き詰まり、一時は自死を考えたそうです。しかし、ボランティアの人に助けられて立ち直り自分もまたボランティアで残りの人生を生きようと決意されたそうです。

佐藤さんは福島弁で話されたのでやや分かりづらく、引率メンバーの一人であった岩波書店労組・大山美佐子さんからのご解説を合わせていただいたのですが、その内容によれば、政府への批判や、自然災害による被害が巨大化し、地球上ではもう限界状況にあると危機感をもって話されていました。この話が始まるころから空は雨模様になり、伝承館は今後、何を伝承していかなければならないのか考えながら帰路につきました。引率してくれた富山さんはじめ出版労連・原発問題委員会のみなさん、ご苦勞様でした。



伝承館に設置された線量計

【SP支部・横山完治】

#### 出版労連・出版情報関連ユニオン会報 Leap5月1日号より転載

伝承館ツアーには、WAN会員の北林さん、富山さん、若藤も参加しました。

伝承館隣の産業交流センター屋上から中間貯蔵施設と福島第一原発の排気筒が見えました。この屋上には太陽光パネルがびっしりと設置されていて、なんとも皮肉な光景でした。

そして、中間貯蔵施設から「3時です。皆さん、スクリーニングを行ってください」との放送が聞こえ、現場労働者の大変さを感じました。

## 【WAN の開催した講演会・学習会】

WANでは、設立以来、下記のような講演会を開いてきました。講演会 DVD があるのは (DVD) です。視聴ご希望の方は、運営委員までお申し出ください。

### 2011 年度 (平成 23 年度)

11 月 9 日 設立記念講演会

「子どもたちを放射線から守るために～チェルノブイリからのメッセージ～」

講師：向井雪子氏 (チェルノブイリ子ども基金代表理事)

### 2012 年度 (平成 24 年度)

8 月 25 日 (土) 学習会 (DVD)

「福島第一原発事故と放射能～内部被ばくを避けるために」

講師：川根眞也氏 (内部被ばくを考える市民研究会代表)

1 月 22 日 (火) 上映会 (DVD)

「内部被ばくを生き抜く」(監督：鎌仲ひとみ氏)

### 2013 年度 (平成 25 年度)

4 月 25 日 (木) 学習会

「今後に向けて 私たち市民はどう考え どう行動していったらよいのか」

講師：瀬川嘉之氏 (NPO 法人市民科学研究室)

11 月 2 日 (土) 講演会 (DVD)

「放射能汚染時代の新しい常識 - 内部被ばくから生命と健康を守るために」

講師：児玉順一氏 (ときがわ町こだま医院・院長)

### 2014 年度 (平成 26 年度)

5 月 10 日 (土) 上映会・講演会 (DVD)

「原発のまちを追われて」(制作：堀切さとみ氏)

11 月 25 日 (火) 学習会

「学校給食食材測定報告会」(会員：土井奈央子氏)

### 2015 年度 (平成 27 年度)

10 月 27 日 (火) 学習会 (DVD)

「放射線って免疫に影響するの？～原発事故～放射線の免疫系等におよぼす影響」

講師：崎山比早子氏 (福島原発事故調査委員会委員)

### 2016 年度 (平成 28 年度)

5 月 14 日 (土) 講演会

「ひまわりの会の活動」

講師：杉山恵氏 (朝霞・ひまわりの会代表)

10 月 4 日 (火) WAN さろん

お話：母子避難している河井かおりさん

### 2017 年度 (平成 29 年度)

5 月 13 日 (土) 報告会

「東日本土壌ベクレル測定プロジェクトから見えてきた東電福島原発事故の爪痕」

報告者：根岸主門氏 (森の測定室 滑川報告会)

11 月 19 日 (日) 講演会

「復興の槌音と震災の爪痕～ふくしま視察報告会～」

講師：橘 光顕氏 (東日本大震災に咲く会ひまわり)

<10 月 10、11 日会員 6 名が橘氏の案内で福島を視察した>

### 2018 年度 (平成 30 年度)

5 月 26 日 (土) 講演会

「原発事故から 7 年 - 子どもたちの暮らしと健康 - in 埼玉」

報告者：川根眞也氏 (元さいたま市中学校教員)

11 月 10 日 (土) 講演会

「保養」 - 子どもたちの未来のために -

報告者：向井雪子氏 (未来の福島子ども基金世話人)

### 2019 年度 (令和 1 年度)

5 月 25 日 (土) 講演会

報告者：伊丹高氏、片野令子氏、大城資子氏 (福島こども保養プロジェクト@練馬)

9 月 28 日 (土) 講演会 (DVD)

「放射線のホントのことを知しましょう！」

報告者：根岸富男氏 (元神奈川県立高校教師)